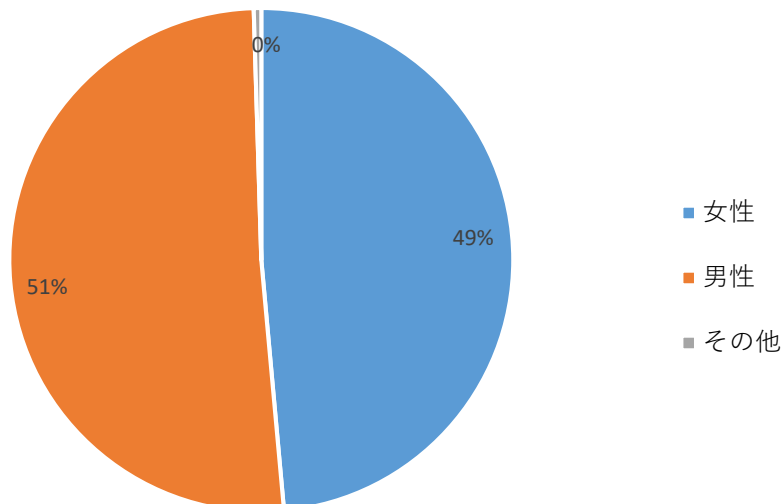


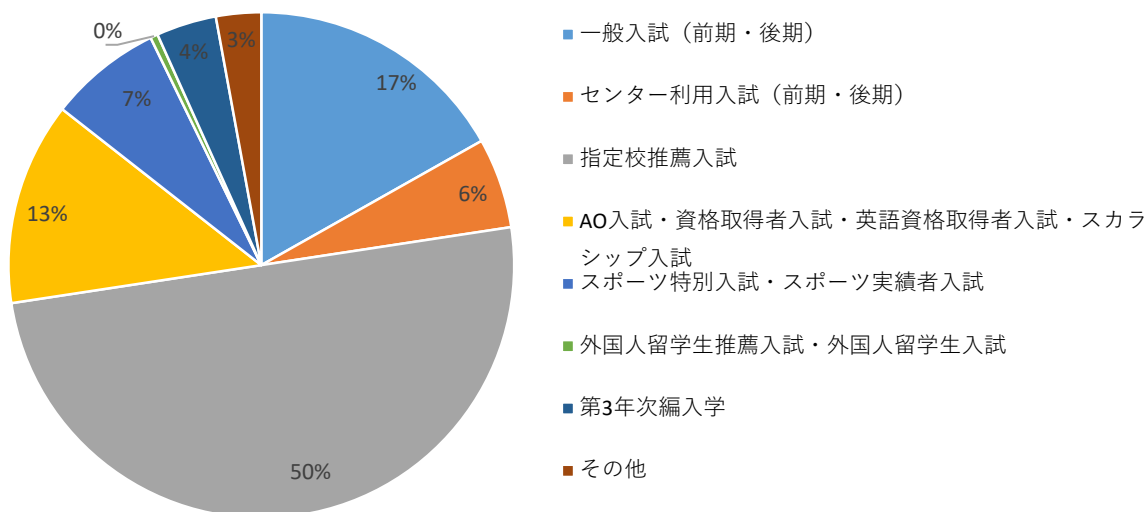
2020年度コミュニケーション学部卒業時アンケート

調査対象： 2020年9月卒業生 4名、2020年度3月卒業生 231名
 調査実施期間： 2020年9月1日～9月15日、2021年3月2日～3月31日
 回答数： 208件
 回答率： 88.5%

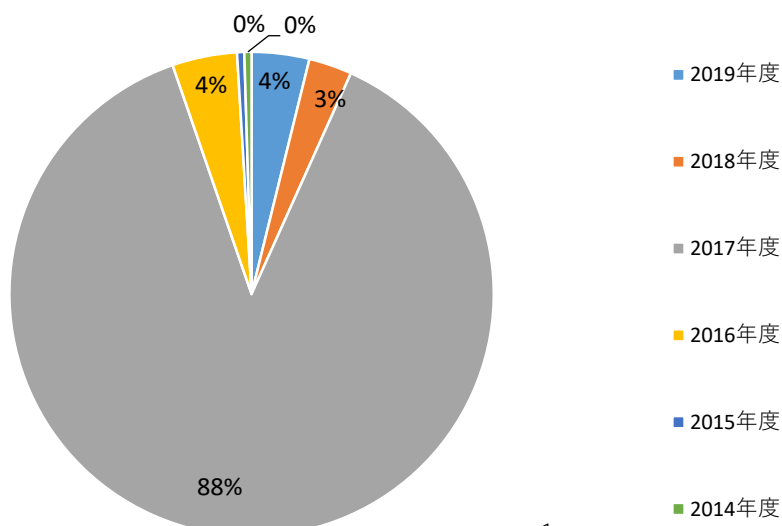
設問1 あなたの性別をお答えください。



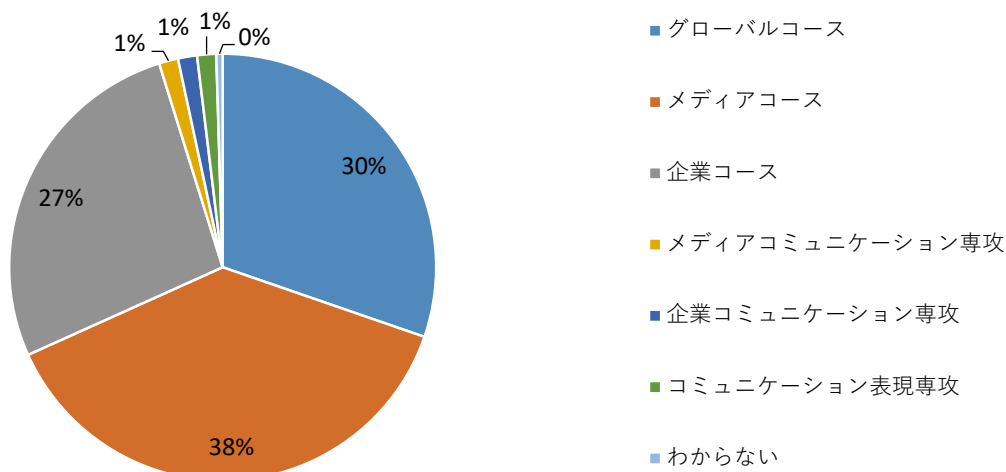
設問2 あなたはコミュニケーション学部にどのような試験制度で入学しましたか。



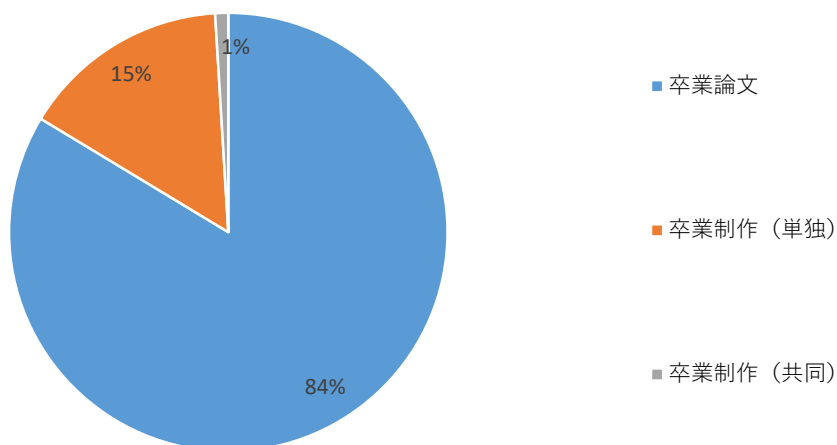
設問3 あなたの入学年度（編入学の方は編入学年度）はいつですか。



設問4 あなたは学部でどのコースまたは専攻に属していましたか。

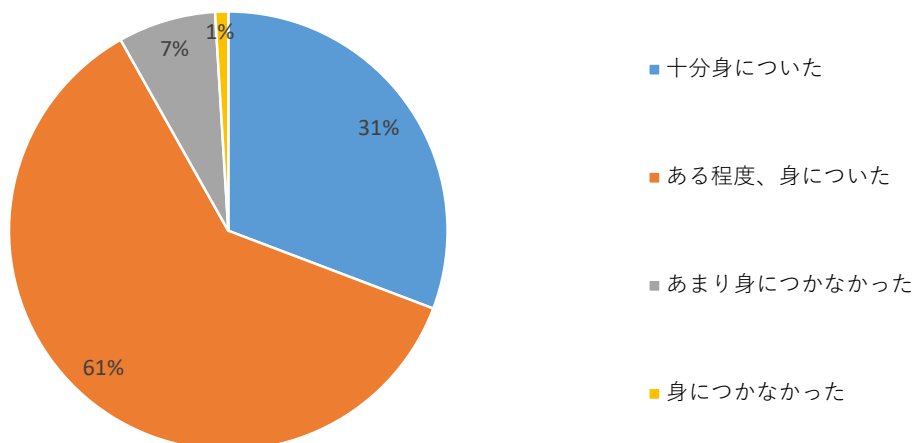


設問5 あなたは「卒業研究／卒業制作・卒業論文」をどの区分で提出しましたか。

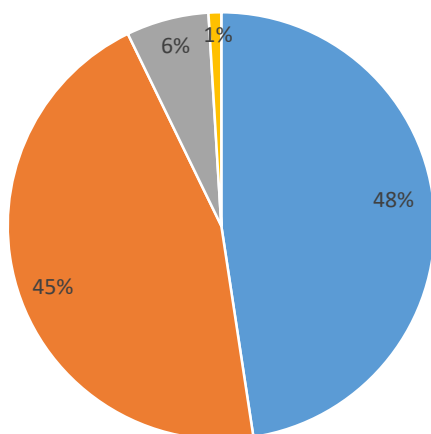


大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価として、以下のそれぞれの項目についてももっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

設問6 「人間・社会・言語・自然」についての教養

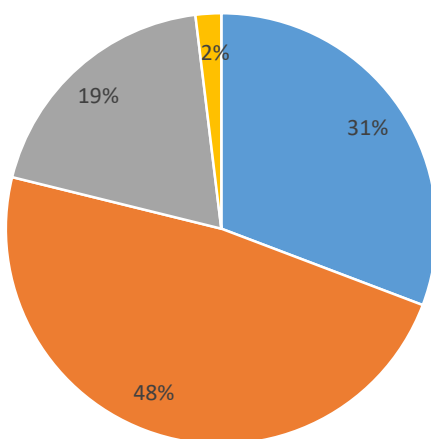


設問7 他者との対話力



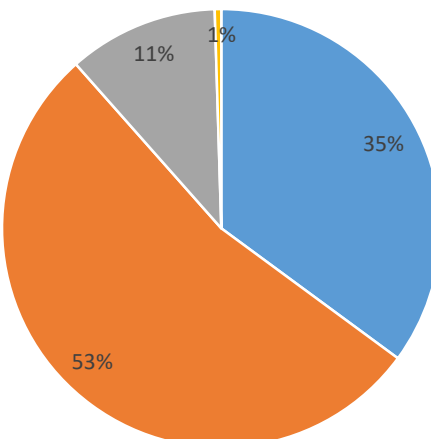
- 十分に身についていた
- ある程度、身についていた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問8 他文化との対話力



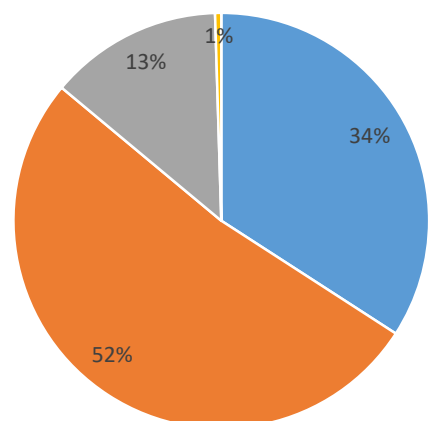
- 十分に身についていた
- ある程度、身についていた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問9 メディアに関する知識



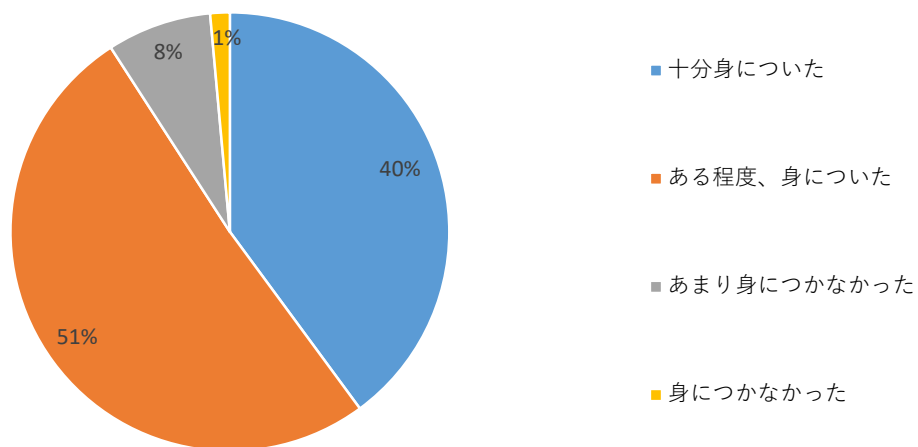
- 十分に身についていた
- ある程度、身についていた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

設問10 情報を分析・評価する能力

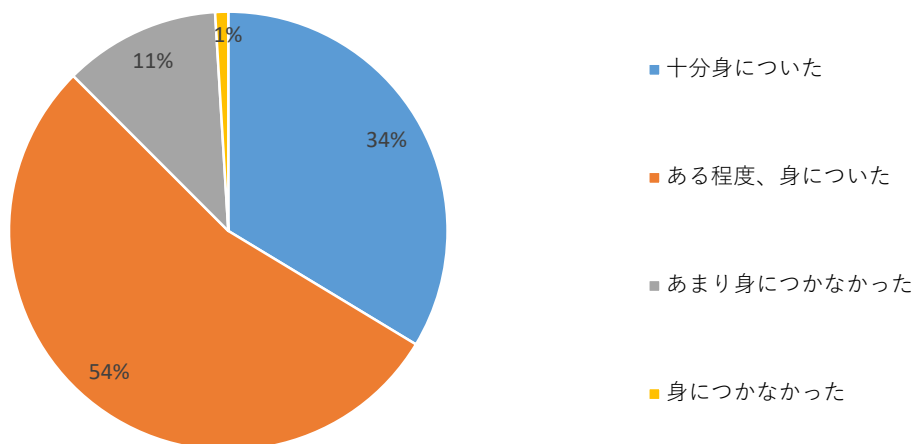


- 十分に身についていた
- ある程度、身についていた
- あまり身につかなかった
- 身につかなかった

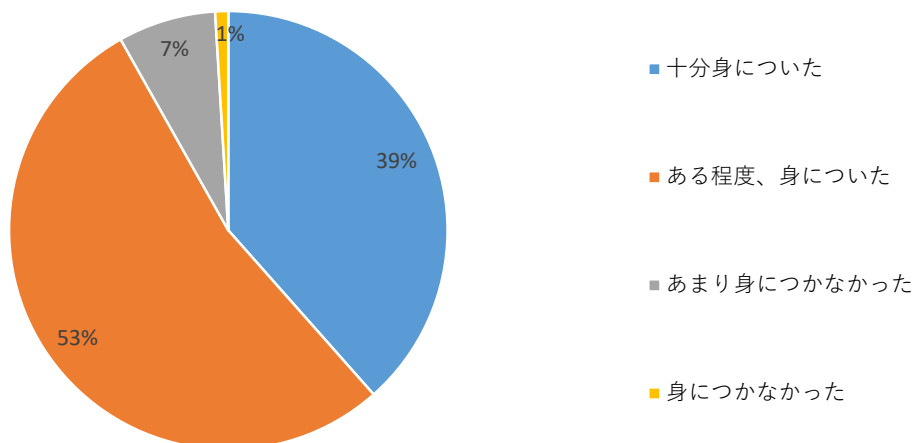
設問11 コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力



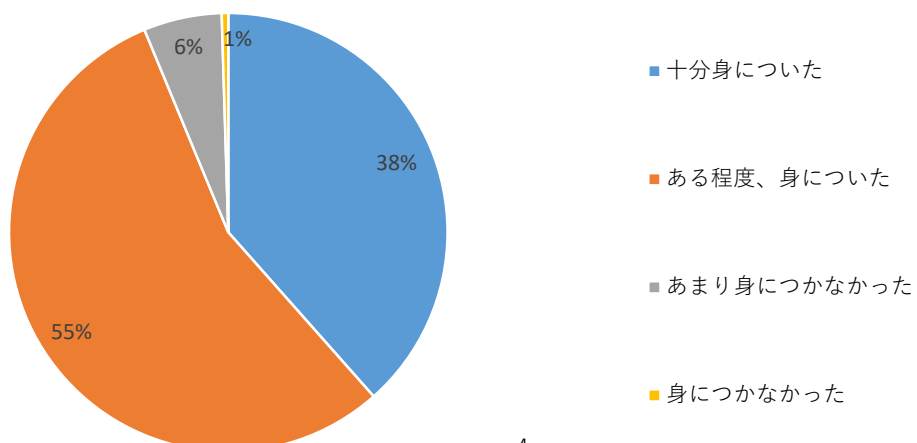
設問12 コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力



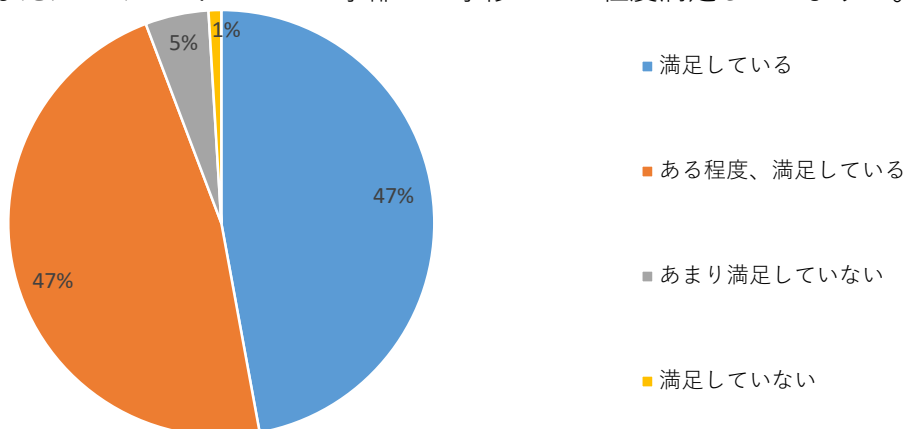
設問13 自分の考え・アイデアを表現する技能



設問14 自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能

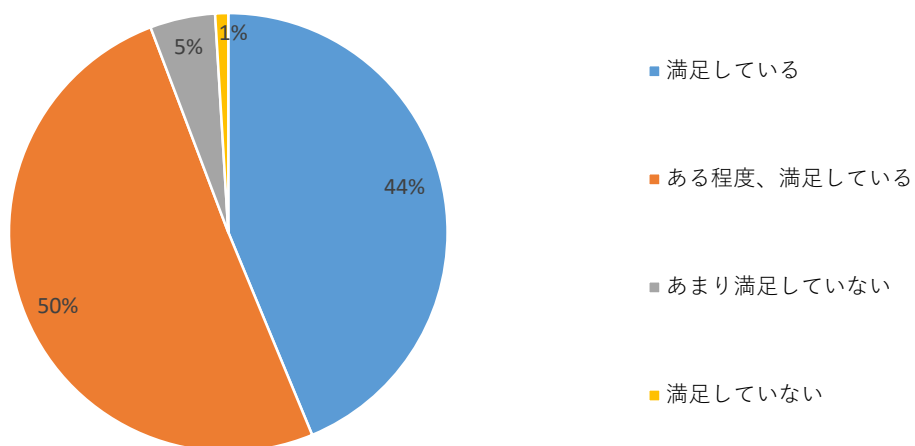


設問15 在学期間を振り返ってみて、あなたはコミュニケーション学部での学修にどの程度満足していますか。

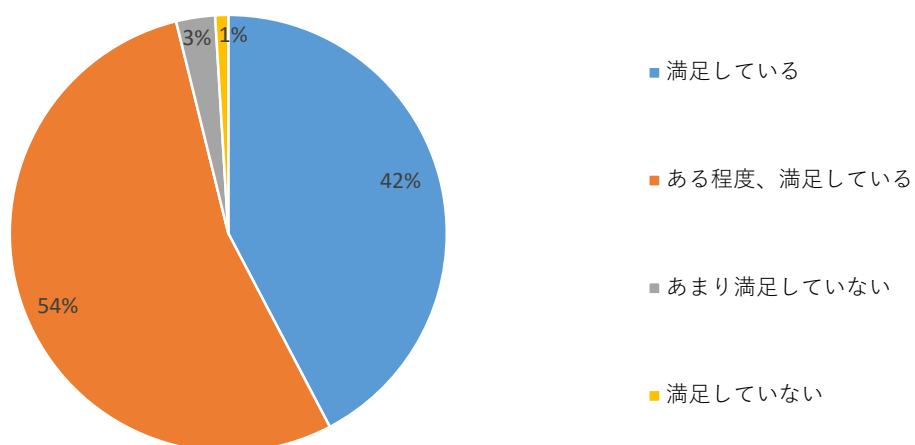


入学後の総合的な満足度として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

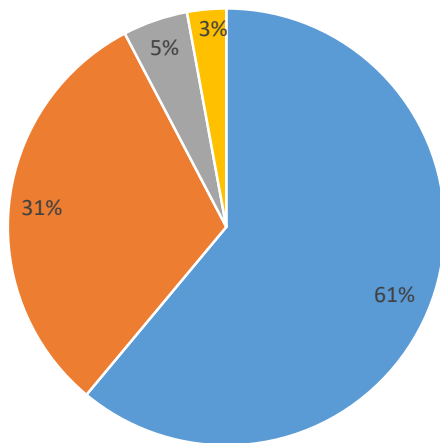
設問16 学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育



設問17 総合教育科目に関わる教育

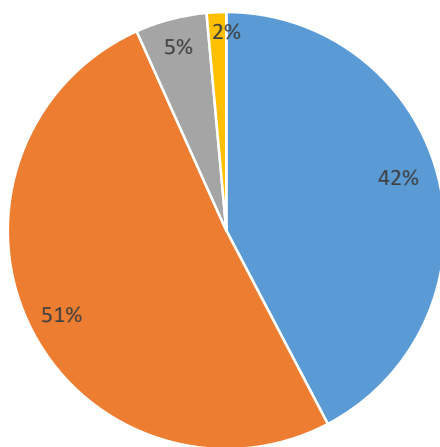


設問18 「演習」



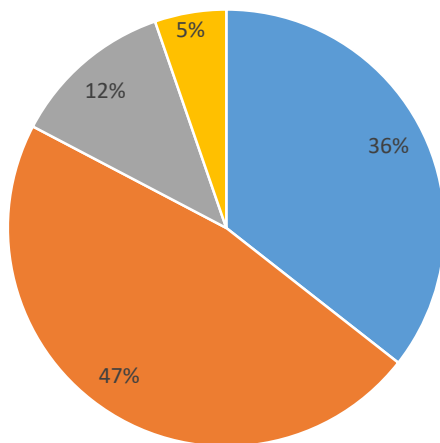
- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

設問19 カリキュラム全般



- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

設問20 就職活動支援



- 満足している
- ある程度、満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

【分析編】

2020 年度コミュニケーション学部卒業生に卒業時アンケートを、9 月卒業生には 2020 年 9 月 1 日～15 日に、3 月卒業生には 2021 年 3 月 2 日～31 日にかけてオンラインで実施した。合計 208 件（9 月卒業生 2 名、3 月卒業生 206 名）の回答があり、卒業生全体に占める比率は 88.5 パーセント（208/235）であった。本調査の主眼は、卒業時の学生が自身の 4 年間の学修成果をいかに感じているのか（成長実感）を可視化することであり、調査項目は当学部のディプロマ・ポリシー（以下 DP）に対応するかたちで作成されている。上記「大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価」が該当の項目である。以下、DP ごとに結果を確認する。

「人間・社会・言語・自然」についての教養」が、DP1「コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養」に対応する評価項目である。教育課程上は、総合教育科目を中心に学修する内容である。「十分身についた」と回答した者が 31%、「ある程度、身についた」と回答した者が 61%であった。この 2 つを合計すると、ポジティブな自己評価を示した者が 92%と回答者のほとんどを占めたといえる。

「他者との対話力」および「他文化との対話力」は、DP2「コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力」に対応する評価項目である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、グローバルコース科目およびワークショップ科目を中心に学修する内容である。「他者との対話力」については、「十分身についた」が 48%、「ある程度、身についた」が 45%と、この 2 つの選択肢を合計した肯定的自己評価は 93%と非常に高い割合であった。一方、「他文化との対話力」は「十分身についた」「ある程度、身についた」をあわせて 79%と回答者の約 5 分の 4 に留まった。「他者との対話力」は幅広い授業を通じて学修する内容であるのに対し、「他文化との対話力」は英語系ワークショップを中心とした少人数授業の一部での学修が中心となり、相対的に達成度が低くなったと考えられる。ただし、2019 年度卒業生アンケートではこの値は 73%であったことから、若干の改善がみられたことは付記しておく。

「メディアに関する知識」「情報を分析・評価する能力」が、DP3「コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力」に対応する項目である。基幹科目と展開科目の共通科目、メディアコース科目および表現系ワークショップ科目を中心に学修する内容として教育課程上に位置づけられている。それぞれ肯定的回答（「十分身についた」「ある程度、身についた」の合計）が 88%、86%であった。この数字を見る限り、十分に高い水準で達成されていたことが確認できたといえるだろう。

「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力」「コミュニケーションに関わる事柄での問題を分析・解決する能力」は、DP4「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見・分析・解決する能力」に該当する項目である。教育課程上は基幹科目と展開科

目の共通科目、3つのコース科目、調査系ワークショップ科目を中心に学修する内容である。これらの2つの項目では肯定的回答がそれぞれ91%、88%であったことから、どちらも十分に高い達成度が示されたと判断できる。

「自分の考え・アイデアを表現する技能」および「自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能」は、DP5「自分の考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能」に該当する項目である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、企業コース科目、英語系・表現系ワークショップ科目、そして卒業研究を中心に学修する内容となっている。前者の項目の肯定的回答は92%であった。また後者の項目の肯定的回答は93%であった。これらのことから、DP5についても高い水準で達成できていたと卒業生は自己評価していたと判断できるだろう。

また、入学後の総合的な満足度について、「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」「総合教育科目に関わる教育」「演習」「カリキュラム全般」「就職活動支援」の5項目を尋ねた。肯定的回答（「満足している」「ある程度、満足している」の合計）は「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」で94%、「総合教育科目に関わる教育」で96%、「演習」で92%、「カリキュラム全般」で93%、「就職活動支援」で83%であった。専門教育に対する満足度についてはどちらも94%、92%の肯定的回答が得られており、高い満足度が示されたといえるだろう。特に「演習」については「満足している」の回答の割合が61%と肯定的回答の約3分の2をしめており、高い満足度が得られていたと判断できる。

総括すると、2020年度コミュニケーション学部卒業生は、コミュニケーション学部のディプロマ・ポリシーを4年間で多くが達成したと自己評価していたといえるだろう。また、教育課程に対する満足度もいずれの点についてみても十分に高かったといえるだろう。今後はこの結果を維持・向上させるよう、努力を継続していく必要がある。